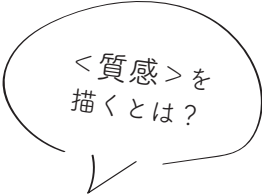


文化村クリエイション vol.5

伊庭靖子の見かた、描きかた



<質感>を
描くとは？

伊庭さんの作品は具体的なものが描かれている点で、具象絵画と言えます。しかしその中で取り組んでいることは一貫して、「質感」を描く、ということです。これまで20年以上にわたる制作を通して、描こうとする「質感」は少しずつ変化してきているようです。本紙ではその変遷をご紹介します。

今回は3ヶ月間の公開制作を行い、ここで制作した新作を中心とした展覧会を開催します。ぜひお越しください。

<展覧会>

2024年3月5日(火)～3月24日(日) 9:00-17:00

*月曜休館

芸術文化体験棟3階 スタジオ302・304



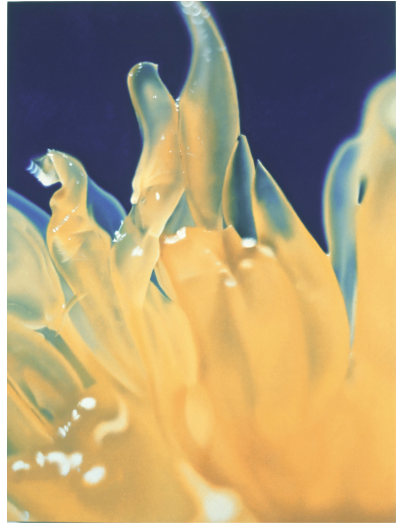
←最新情報はこちら



なら歴史芸術文化村

1. 写真らしさの質感

伊庭さんは初期から、モチーフを写真に撮り、それをもとに油彩画を描いています。モチーフを模索する中で、写真がブレたところの透明感や、ピントの合っているところからボケているところへの移り変わりなどに魅力を感じたそう。具体的な対象物を描きながらも、このような質感そのものを主題として描こうとする試みが始まりました。取り組んでいることが「質感」という言葉になるのは後のことで、最初は「写真らしさ」という言葉を使って説明されていました。「写真のような絵」ではなく、「写真らしい質感を描く絵」であることが大切な点です。



《Untitled 1999》
油彩、カンヴァス 165×123cm

2. 光の質感

寝具やクッションがモチーフに登場し始めた初期は白いものが中心で、白のグラデーションを繊細に表現する作品は、まるで「光」そのものを描いているようです。やわらかい布や硬い椅子、艶のあるプリンなど、光が当たったときの反射光の違いを描くことにも取り組んでいました。それは対象物そのものが持つ質感であり、鑑賞者がそれを体感できるような表現へと向かっていきました。具体的な対象物を認識するよりも一瞬だけ前に、鑑賞者の記憶から柔らかさや匂い、心地よさなどを呼び起こそうとしています。



《Untitled 2003-07》
油彩、カンヴァス 42×59.5cm



《Untitled 2003-04》
油彩、カンヴァス 36.5×51.5cm

3. 質感の宿る場所

模様のあるクッションや陶磁器をモチーフにし始めた頃から、質感や光はどこに宿るのか、それを鑑賞者の眼がどのように動いて捉えるのかが前項と並行して関心事になりました。クッションの白い布地と模様の関係により生まれる質感、陶器では釉薬のガラス質に光が入り込み下の素焼きの層で反射するなど。鑑賞者にも質感や光の宿る場所を探ってもらおうとしています。



《Untitled 2009-01》
油彩、カンヴァス 140×140cm
撮影：加藤成文



《Untitled 2008-09》
油彩、カンヴァス 70×70.5cm
撮影：加藤成文

4. まとう空気質感

それまでモチーフの表面に質感を求めていたところから、少し距離を置いて捉えたいと考えるようになり、周りの空間やモチーフがまとう空気質感を描く挑戦が始まりました。アクリルボックスを置くことで周りの風景や光が反射して映り込み、モチーフが風景をまとうような表現が生まれました。伊庭さんとモチーフの関係に広がりが出てきたようです。



《Untitled 2018-02》
油彩、カンヴァス 162×227.3cm
撮影：木奥恵三

5. 風景の質感

10年以上前から風景を油彩で描きたかったけれど、なかなかできなかつたと言います。大学では版画科専攻であった伊庭さんは、2018年まずは版画で風景作品を制作します。すると、ひとつのまとまりある質感として風景を捉えられるようになったそう。2020年から油彩で描き始めました。

遠くにある木々や、距離が異なる風景の質感をどう描くか、模索しているようです。赤外線カメラで撮影した写真を使用するため色は自身で決めること、空間が広がり情報量が格段に増えたことなど、取捨選択の幅も大きくなりました。



《grain #2019-1》

シルクスクリーン、紙 (BFK Rives)
76.5×57cm
撮影：植松琢磨



《Untitled 2022-01》

油彩、カンヴァス 162×227.3cm
撮影：加藤成文

“何が描かれているかというのを見るのではなく、この会場全体で身体で感じる質感を浴びてもらい感じになれば良いと思うんですよ。だから私の作品を観終わったときに、こんな絵があった、あんな絵があったじゃなくて、全体の絵は憶えていなくてもそういう空気を味わったとか、そういう感覚を味わったというのを感じてもらえたら良いと思うんです。”

2008年12月1日インタビューより（掲載：「伊庭靖子展－まばゆさの在処－」図録 神奈川県立近代美術館発行）

文：遠山きなり（なら歴史芸術文化村 アートコーディネーター）

是非こちらからご意見・ご感想をいただければ幸いです→

